



東日本大震災から5年の赤十字防災ボランティアの活動を振り返って

岡山赤十字看護専門学校 専任教師 大森美幸



震災から5年 私たちは、忘れない。



2011年	3月11日	岡山赤十字病院救護班出動の見送り、翌日からボランティア活動
	3月19日 20日	日本赤十字社防災ボランティアセンターボランティア派遣参加
	3月23日	日本赤十字社岡山県支部防災ボランティアセンター開設
		事務局員として赤十字防災ボランティア被災地派遣支援 第1次 ※看護学生や教職員は救護班出動や物資搬送の積み込みなどの手伝いをしました。
2012年	6月～	事務局員として震災2年目の派遣支援 第2次 ※8月に看護学生も岩手県派遣にボランティア参加しました
2013年	11月1日 ～4日	平成25年度赤十字防災ボランティア被災地復興支援参加 第3次
2014年	10月31日 ～11月3日	平成26年度赤十字防災ボランティア被災地復興支援参加 第4次
2015年	10月8日 ～12日	平成27年度赤十字防災ボランティア被災地復興支援参加 第5次

2011年3月11日（金）14時46分、三陸沖を震源としたマグニチュード9.0の巨大地震が発生しました。東北、関東地方の太平洋沿岸に未曾有の大災害をもたらしました。

5年前のちょうどその時刻、私は勤める岡山赤十字看護学校で1年生の看護技術認定試験を行っていました。一人の学生が、「先生、

先生、さっき大きな地震があったみたいです。」と言って来ました。試験を終えてからテレビで確認すると、未だかつて見たこともない影像が飛び込んできました。その瞬間から、「今、何かできることはないか・・・。」という思いで歩み始めました。

同日 19 時 40 分、本社からの救護班の派遣命令を受けた岡山赤十字病院の救護班の出勤を見送りました。私は翌 12 日から支部で、前日救護班と一緒に見送っていた赤十字ボランティアとともに活動を始めました。当時は連日、学校での勤務を終えてから深夜に及ぶ活動でした。主にボランティアを送り出す支援をしていましたが、3年目からは仮設住宅の訪問が始まり、私も参加するようになりました。3回の派遣で、私は保健担当としてボランティアの方々が健康に現地へ笑顔をお届けられる様に支援しました。そして、私自身も健康生活支援の講習や仮設住宅を訪問して、被災地の方と語り合う機会をいただきました。

ハンドマッサージやリラクゼーションを行ないながらお話を伺う中で、被災地の方の語りの中に少しずつ変化を感じることがありました。3年目は大切な人々の話をしながら涙があふれる方、4年目はその時の様子を語ることができるようになった方、そして5年目は未だに元の住んでいた所へ戻れない嘆きと少し自分の未来の話をする事ができるよう

になっている方もおられました。しかし、依然訪問してもお返事をいただけない方々もいらっしゃいます。同じ仮設住宅へ3度目訪問した時、私たちボランティアが送ったお土産が壁に飾られていました。被災地の方も、私たちも、「人と人とのつながりを忘れない。」という思いの象徴のように感じました。

「私たちは、忘れない。」為にも、この経験を語り合い語り継いでいかなければならないと思いました。「今、何かできることがあるはず。」と、これからも考え続けていきたいと思えます。



看護学生の皆さんがボランティア協力で書いたメッセージカード

「とどけよう岡山から岩手へのメッセージカード」をたくさん書いていただきありがとうございました。

赤十字防災ボランティアは、平成27年10月8日～10月12日岩手県の仮設住宅へ訪問し、皆さんのメッセージを大切に届けました。被災地の方は、大変喜んでくださり、きっと3度目の訪問の記念に壁に飾ってくださっていると思います。

